

8 月度 <small>例会</small> <b>山行報告書</b> <small>個人</small>		報告者	渡辺勝利	参加 メンバー	L 渡辺勝利 育子
山 域	北海道 知床	報告日	09 / 03		
山 名	羅臼岳 (1660.2m)	山行日	06 年 08 月 16 日 (水)		

山行目的	北海道の未知の山探訪 ( 3 )	コースタイム ( 天候 : 天気図記号 )
------	------------------	-----------------------

配布先	ルート図 ( 地図を見て正確に )
集会:12	
山行: 1 リーダー	
原紙: 集 会担当者	



曇りのち雨のち晴れ 03:30 起床 ( 04:30 岩尾別登山口発 (木下小屋前)	09:45 羅臼岳頂上 ~ 55
06:05 弥三吉水 ~ 10	10:35 岩清水
06:30 極楽平通過	10:55 羅臼平
07:20 銀冷水 ~ 25	11:25 大沢入り口
07:40 大沢入り口	11:40 銀冷水通過
08:10 羅臼平 ~ 20	12:20 極楽平 ~ 35
08:55 岩清水 ~ 09:00	12:45 弥三吉水通過
	13:25 オホーツク展望台 ~ 45
	14:00 登山口着

山行報告 宗谷岬の駐車場で記念歌碑からの「流水溶けて・・・」を一晩中子守歌かわりに聞いて車中泊し、翌日はオホーツク海を左に眺めながら、ひたすら知床を目指す。途中の紋別、枝幸、網走、斜里、宇登呂などで道草を食いながらの楽しいドライブの後、岩尾別の木下小屋に着く。ここはホテル「地の涯」横からわずかばかりの距離にあり、5 台程度の駐車スペースもある。ただし、木下小屋は 15、16 日はお盆休業中とのことで期待していた露天風呂はお預けとし、2 日連続の車中泊となる。さて北海道の山旅も半ばを過ぎると 3 時半起床、4 時半の早朝出発も全く苦勞にならず、曇り空の中をザックの鈴を鳴らしながら出発。樹林帯の中よく整備された道に鈴の音のみがリズムカルに響く静かなスタートである。弥三吉水の水場で冷たい水を補給 ( コップまで置かれているのでエキノコックスの恐れはないと判断した ) しさらに歩を進める。銀嶺水では上から下りてきた学生の 4 人パーティと歓談。彼らの話では「硫黄山への縦走を諦めて下山してきた。頂上は風が強いぞ」とのこと。アドバイスに感謝しつつ先を急ぐ。ガスが巻き視界も悪くなり始めた大沢付近からは心配していたとおり、とうとう雨が強くなりカッパを着ける。雪渓も残り少ない大沢から羅臼平に至るも視界は

極めて悪い。しかし、ルートは明確で迷うこともなく這松帯を抜け、岩清水付近まで来ると山容がガラリと変わり岩峰状となってくる。ここからは岩登りの 3 点指示の原則を守り、急な岩場を注意深く攀じ登る。最後の大岩をトラバースすると狭く切り立った頂上に出るも雨と強風で立つことが困難なため、腹ばい状態で漸く辿り着くことができた。

リーダー所見 雨と風の中、残り少ない桔梗の花に慰められつつ、眺望は望めなかったが「雨と風、それも又良し、登山かな」の心境で記憶に残る山行となった。上部の岩峰部分は雨が降ったりすると結構いやらしい。幸いにも我々は出発が早く登頂できたが、本日の入山届け者が 50 名程度で登頂者は数名程度であり、後発組は殆ど途中下山した模様。

フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



雨と強風の羅臼岳山頂

確認 (リーダー)	
作成 (報告者)	